

**盛岡市教育委員会**  
**『令和3・4・5年度研究指定校**  
**【教育課程一般】（学力向上）』**  
**中間発表**

盛岡市立見前南中学校

## I 研究主題

# 学びを深める生徒の育成

～主体的・対話的で深い学びの授業実践を通して～

## Ⅱ 主題設定の理由

### 1 教育の動向から

#### (1) 新学習指導要領の方向性

- ① 学校の教育活動を進めるに当たっては、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、生徒に生きる力を育むことを目指すもの。
- ② そして、その育成に関わっては、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めることとある。
- ③ 豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される生徒に対して、生徒の発達段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとされている。
  - ア 知識及び技能が習得されるようにすること
  - イ 思考力、判断力、表現力等を育成すること
  - ウ 学びに向かう力、人間性等を涵養すること

## Ⅱ 主題設定の理由

### 1 教育の動向から

#### (2) 岩手県の取り組みについて

##### ① 「確かな学力育成プロジェクト」

日々の授業や諸調査から明らかになった児童生徒の「つまずき」に着目し、児童生徒の学習改善や教師の指導改善に生かすことを通して、児童生徒一人ひとりの資質・能力の向上を目標としている。そして「諸調査結果の積極的活用」「授業研究の活性化」「家庭学習の内容の充実と習慣化」「言語能力の育成」を重点としている。

##### ② 「いわての授業づくり3つの視点」

「確かな学力育成プロジェクト」の重点でもある「授業研究の活性化」を進めるにあたり、「いわての授業づくり3つの視点」が示されている。

視点1 「学習の見通し」

視点2 「学習課題を解決するための学習活動」

視点3 「学習の振り返り」

また、上記の3つの視点は、学習規律の徹底と温かい人間関係のある学級づくりの上に成り立つものと示されている。

## Ⅱ 主題設定の理由

### 2 本校の実態から

本校ではここ10年、「小中一貫教育」を大切にしながら、『実社会で生きてはたらく「思考力・判断力・表現力」の育成』を研究主題に、副題や視点をその時の生徒の実態を踏まえて設定し、生徒が「主体的に学ぶための資質」を育成してきた。

令和2，3年度は、新たにキャリア教育の視点を取り入れた小中連携の在り方の研究に取り組んだ。その成果として『自己理解や他者理解が深まり、学習活動や学校生活への意欲が高まっている』と考える。

また、「コロナ禍」という社会情勢を受け、様々な行事や活動が制限され「対話」や「交流」の場面が減ったことから、ディスタンスを保つこと等に有効なICTの活用が盛んになった。そのような中で『その学びが自分の将来にどうつながっているのかを生徒が実感していない様子がやや見られる』『自己肯定感においてまだ低い点が見られる』ことが課題として挙げられた。

## Ⅱ 主題設定の理由

### 2 本校の実態から

そして、昨年度の研究を振り返った「職員アンケート」から、今後の研究で深めたい視点を以下の4点にまとめた。

- ① 活かして発展させる・自らの問い・PDCA→「自己調整」
- ② 能力差・意欲差・学力差・多様性→「個に応じた」「個別最適化」
- ③ ロイロノート・インターネット環境の安定・タブレットでの家庭学習→  
「ICT機器の活用」
- ④ 「指導と評価の一体化について」
- ⑤ 主体性・他者との関わり・挑戦・明るくさわやか・思いやり→  
「豊かな人間性」

## Ⅱ 主題設定の理由

以上1, 2を踏まえて研究主題を設定し, 生徒の「生きる力」を育もうとするものである。

また, 本校は盛岡市教育委員会より『令和3・4・5年度研究指定校【教育課程一般】（学力向上）』に指定されている。これまでの実践の上に, さらなる指導改善を図っていく。

### Ⅲ 今年度の重点

- 1 「生きる力」を支える『確かな学力』を育成するための資質・能力を高める授業改善を図る。
- 2 本校が大切にしてきた「言語活動」の実践を「言語能力」の育成につなげ、主体的・対話的で深い学びを実現させる。



## IV 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

- (1) 「深い学び」を導く主体的・対話的で深い学びのある授業づくり
- (2) 学習の基盤となる言語能力の育成をはかる授業づくり

## IV 研究の内容と方法

### 2 研究の方法

- (1) 単元や題材など内容や時間のまとまりを示した「学習構想案」を作成する。
- (2) 単元や題材など内容や時間のまとまりに「言語活動」を位置付ける。
  - ・ 体験から感じ取ったことを表現する活動
  - ・ 事実を正確に理解し伝達する活動
  - ・ 概念・法則・意図などを解釈し,説明したり活用したりする活動
  - ・ 情報を分析・評価し,論述する活動
  - ・ 課題について,構想を立て実践し,評価・改善する活動
  - ・ 互いの考えを伝え合い,自らの考えや集団の考えを発展させる活動等

## V 研究の実践

### 1 一人一回の研究授業の実施

- 5月, 9月, 10月, 11月のいずれかで一人一回, 研究授業を行う。
- 参観者は5教科, 実技教科の教員を合わせて, 5, 6名程度にする。(グループメンバー)
- プレ授業前に「指導案検討」をグループメンバーで行い, 練り上げる。
- 研究授業後に, 研究会を行う。

## V 研究の実践

	研究授業教科	助言者	グループ人数
5月	国語	盛岡市教育委員会 主任指導主事 山下るり子 先生	2人
	数学	盛岡市教育委員会 指導主事 佐々木亘 先生	2人
	保健体育(実技)	盛岡市教育委員会 指導主事 津志田静徳 先生	3人
9月	数学		4人
	理科		4人
	英語	盛岡市立見前南中学校 校長 米慎司 先生	5人
	音楽	岩手町教育委員会 指導主事 田口千紗都 先生	5人
10月	国語		3人
	社会		3人
	理科	盛岡市立見前南中学校 高橋治 先生	3人
	英語		3人
	美術	盛岡市立下橋中学校 指導教諭 佐々木俊江 先生	4人
11月	国語		4人
	社会	盛岡市教育委員会 主任指導主事 泉田学 先生	5人
	保健体育(保健)		4人
	技術	岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事 高橋光広 先生	4人

# V 研究の実践

## 2 数学科実践事例

- (1) 単元や題材など内容や時間のまとまりを示した「学習構想案」を作成する

# V 研究の実践

## 参考例) 1 学年 第 1 章正負の数から

### (3) 指導と評価の計画 (第1章2節)

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法等		
			知識	思考	態度
1	正負の数の加法の意味を理解し、東西の移動をもとにして考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>東西の移動をもとにして、正負の数で、2つの数のたし算を考える。</li> <li>加法の意味を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知①</li> <li>行動観察</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>態①</li> <li>行動観察</li> </ul>
2	正負の数の加法の計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>同符号、異符号の数の加法について、加えた2つの数と和の符号や絶対値に着目して、計算方法を考える。</li> <li>正負の数の加法の計算をする。</li> <li>0との加法について考える。</li> <li>分数や小数の加法の計算をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知②</li> <li>プリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思①</li> <li>発表</li> </ul>	
	正負の数では、加法の交換法則と結合法則が成り立つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数で学習したたし算の計算法則が、正負の数でも成り立つかどうかを調べる。</li> <li>加法の交換法則 結合法則を利用して</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知②</li> <li>行動観察</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>態②</li> <li>行動観察</li> </ul>

## V 研究の実践

### 2 数学科実践事例

(2) 単元や題材など内容や時間のまとまりに「言語活動」を位置付ける。

実践例) 3学年第2章平方根

目標： $\sqrt{a} + \sqrt{b}$ を $\sqrt{a+b}$ と計算できない理由を，近似値や面積図を用いて考え，説明しよう。

活動：ロイロノートで自分の考えを発表し，考えを交流する。

他者の考えを聞き，自分の考えとの違いや共通点を話し合う。

# V 研究の実践

## 近似値で考える 違う？

	$\sqrt{a} + \sqrt{b}$	$\sqrt{a+b}$
$a=4$ $b=25$	$\sqrt{4} + \sqrt{25}$ $= 2 + 5 = 17$	$\sqrt{4+25}$ $= \sqrt{29}$ $= 5.3851\dots$
$a=2$ $b=3$	$\sqrt{2} + \sqrt{3}$ $= \sqrt{5} = 2.236\dots$	$\sqrt{2+3}$ $= \sqrt{5}$ $= 2.236\dots$

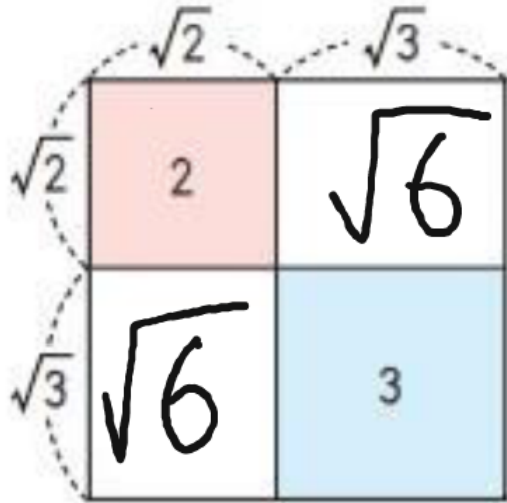
## 近似値で考える

	$\sqrt{a} + \sqrt{b}$	$\sqrt{a+b}$
$a=4$ $b=25$	$\sqrt{4} + \sqrt{25}$ $= 2 + 5$ $= 7$	$\sqrt{4+25}$ $= \sqrt{29}$ $= 5.385$
$a=2$ $b=3$	$\sqrt{2} + \sqrt{3}$ $= 1.414 + 1.732$ $= 3.146$	$\sqrt{2+3}$ $= \sqrt{5}$ $= 2.236$



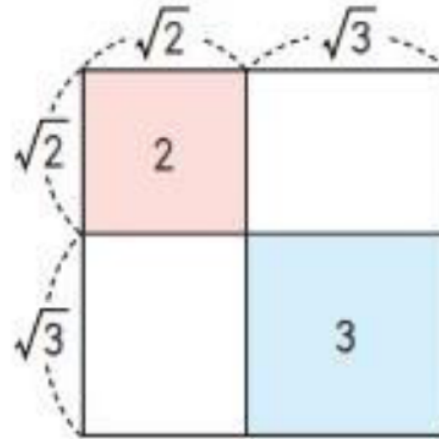
# V 研究の実践

## 面積図で考える



$\sqrt{2} + \sqrt{3} = \sqrt{6}$   
が成り立っていたら  
面積がらになるはず  
なのにピンクと青を  
たすところになって白の  
面積をたすところ以上にな  
るのでおかしい。

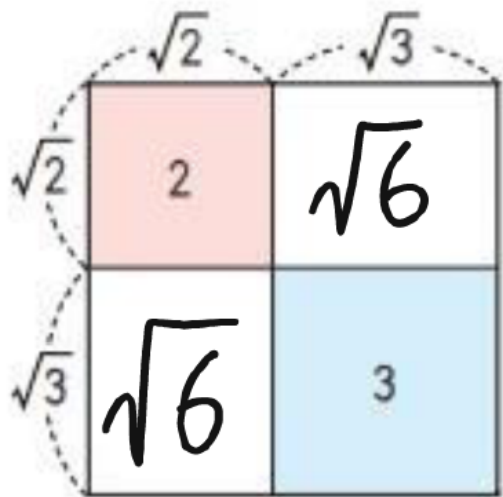
## 面積図で考える



$\sqrt{5} \times \sqrt{5}$  はち  
で面積がらだと  
2 + 3 でもう  
面積のらが  
うまってしまう  
からおかしい。

# V 研究の実践

## 面積図で考える

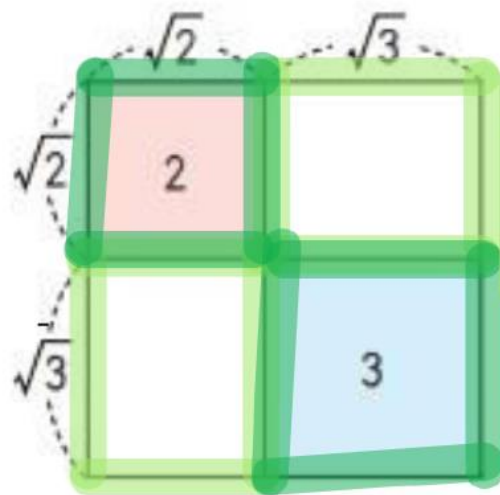


面積は

$$5 + 2\sqrt{6}$$

1辺を $\sqrt{5}$ とすると  
面積は 5 で等しく  
ないから  $\sqrt{2} + \sqrt{3} = \sqrt{5}$   
は成り立たない。

## 面積図で考える



$$2 + 3 = 5$$

$$(\sqrt{2} + \sqrt{3})^2 = 5$$

↓  
になるはずは「けど」  
2+3=5だけ「5」に  
なってるから  $(\sqrt{2} + \sqrt{3})^2 = 5$   
なりましたない

# V 研究の実践

①

$\sqrt{a} + \sqrt{b}$  を  $\sqrt{a+b}$  と計算してよいかどうかを、具体的な数や図を使って説明しなさい。

$a = 4, b = 9$  だとして  
 $\sqrt{a} + \sqrt{b}$  だと  
 $\sqrt{4} + \sqrt{9} = 2 + 3 = 5$

だが  
 $\sqrt{a+b}$  だと  
 $\sqrt{4+9} = \sqrt{13} = 3.6055512754\dots$   
に ちがうので

$\sqrt{a} + \sqrt{b}$  と  $\sqrt{a+b}$  は  
等しくない。

なので  $\sqrt{a} + \sqrt{b}$  を  $\sqrt{a+b}$  と  
計算してはいけない。

## 確認テスト

No. 8

( )組( )番 名前( )

①

$\sqrt{a} + \sqrt{b}$  を  $\sqrt{a+b}$  と計算してよいかどうかを、具体的な数や図を使って説明しなさい。

$a = 3, b = 5$  とすると

$$\sqrt{3} + \sqrt{5} = 3.96\dots$$

$$\sqrt{3+5} = 2.828\dots$$

となり、等しくないことがわかる

よって  $\sqrt{a} + \sqrt{b}$  を  $\sqrt{a+b}$  と

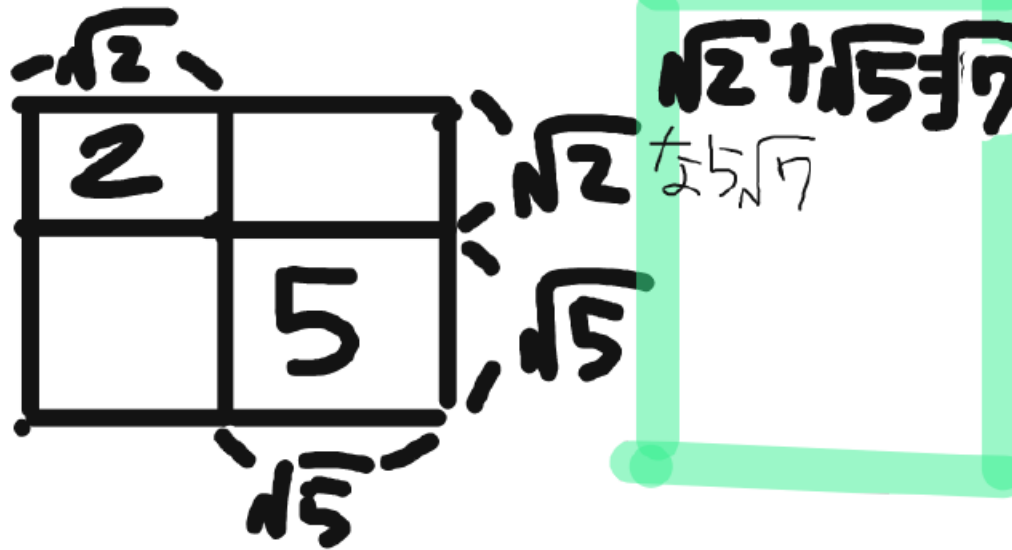
計算してはならない

# V 研究の実践

$\sqrt{a} + \sqrt{b}$  を  $\sqrt{a+b}$  と計算してよいかどうかを、具体的な数や図を使って説明しなさい。

$$\sqrt{5} + \sqrt{2} = \sqrt{7} = 3.650\dots$$

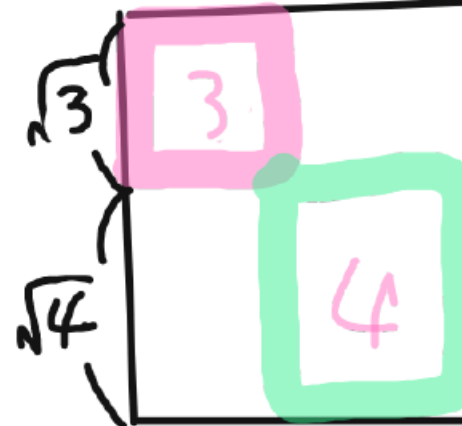
$$\sqrt{5+2} = 2.645\dots$$



①

$\sqrt{a} + \sqrt{b}$  を  $\sqrt{a+b}$  と計算してよいかどうかを、具体的な数や図を使って説明しなさい。

$a=3, b=4$



1辺を  $\sqrt{3} + \sqrt{4}$  とすると、 $\sqrt{7}$  で、左の四角形の面積

を求めると、7 になり、四角形の面積 (2白いところ) をたすと、合わないので、 $\sqrt{a} + \sqrt{b}$  を  $\sqrt{a+b}$  とし (2白い)

## V 研究の実践

### 2 数学科実践事例

#### (3) まとめ

- ICT機器を用いることにより,容易に他者の考えを見ながら話し合い活動ができるようになった。
- 数学に苦手意識を持っている生徒も,他者の発表を参考にしながら,自身の考えとしてまとめ発表しやすくなり,考えを深めることができているように感じる。
- 学級の他の生徒の考えをまとめてみることができるので,集団の考えとして発展させていく活動に取り組みやすくなった。
- 苦手意識のある生徒も,「自分でもできた」と達成感を得られるようになった。

# V 研究の実践

## 3 英語科実践事例

(1) 単元や題材など内容や時間のまとまりを示した「学習構想案」を作成し、ゴールを生徒と共有する。

### Program4 の「学習構想案」

時間	主な学習内容と学習活動	評価規準（評価方法）
1	Scenes 1 ・比較級の用法を理解し、身近なものを比べる。	・比較級などの意味や働きを理解している〔知識〕 ・比較級などの意味や働きを理解をもとに、身近なものを比べた内容について、聞き取ったり書いたりする技能を身につけている。〔技能〕
2	Scenes 2 ・最上級の用法を理解し、自分が「最も～だ」と思うものについて表現する。	・最上級などの意味や働きを理解している〔知識〕 ・最上級などの意味や働きを理解をもとに、気温や自分が「最も～だ」と思う物について、聞き取ったり書いたりする技能を身につけている。〔技能〕
3	Scenes 3 ・as～as…の用法を理解し、身近な物を比べる。	・as～as…などの意味や働きを理解している。〔知識〕 ・as～as…などの意味や働きを理解をもとに、身長や身近なものを比べた内容について、聞き取ったり書いたりする技能を身につけている。〔技能〕
4	Think1 ・生物をヒントにした技術についてのエミリーと父親との対話文を読み取る	・読んだ内容を他の人に説明するために、生物をヒントにした技術についての会話文の概要や要点を捉えている。〔知識・技能〕
5	【本時】 Think2 ・生物をヒントにした技術についてのエミリーと父親との対話文を読み取る	・読んだ内容を他の人に説明するために、生物をヒントにした技術についての会話文の概要や要点を捉えている。〔知識・技能〕
6	Think3 ・生物をヒントにした技術についてのエミリーの発表内容を読み取る	・読んだ内容を他の人に説明するために、生物をヒントにした技術についての会話文の概要や要点を捉えている。〔知識・技能〕
7	Show and Tell（動画撮影） ・生物をヒントにした技術を発表する	・自分が調べた生物をヒントにした技術について、絵や写真を見て、相手に示しながら説明している〔思考・判断・表現〕〔主体的〕
8	Interact ・2つのもののうち、どちら派かをインタビューする ・自分にとってもっとも大事なことを表現する	・自分の考えを相手に分かってもらえるように、自分の好きな物や大切なものについて、インタビューしたり理由とともに答えたりしている。〔思考・判断・表現〕〔主体的〕

# V 研究の実践

## 3 英語学科実践事例

(2) 単元のゴールに「言語活動」を位置づけ,それに向けて読み取った内容を自分の言葉で説明する活動 (Retell) を取り入れる。

実践例) 2年生 Program4  
単元のゴール：  
Japanese Science and Technology  
について説明しよう。



今日の振り返りシートに、もらった評価を書いてね。	〔評価〕	
	A . . .	写真を指しながら、生物をヒントにした技術について相手を意識しながら <u>英文で説明することができる。</u>
	B . . .	写真を指しながら、生物をヒントにした技術について相手を意識しながら <u>英文や英単語で説明することができる。</u>
	B- . . .	写真を指しながら、生物をヒントにした技術について相手を意識しながら <u>日本語で説明することができる。</u>
	C . . .	何もしない。説明をすることができない。

## V 研究の実践

### 3 英語学科実践事例

- (2) 単元のゴールに「言語活動」を位置づけ,それに向けて読み取った内容を自分の言葉で説明する活動 (Retell) を取り入れる。

実践例) 2年生 Program4

単元のゴール:

Japanese Science and Technology  
について説明しよう。



## IV 研究の内容と方法

### 3 英語学科実践事例

- (2) 単元のゴールに「言語活動」を位置づけ,それに向けて読み取った内容を自分の言葉で説明する活動 (Retell) を取り入れる。

実践例) 2年生 Program4

単元のゴール:

Japanese Science and Technology  
について説明しよう。

## V 研究の実践

### 3 英語科実践事例

#### (3) まとめ

- 単元のまとまりを示した「学習構想案」を作成し、ゴールを生徒と共有することにより、生徒がゴールを見据えて主体的に学習に臨むようになった。
- 読み取った内容を伝える活動を取り入れペアを変えながら何度も練習することにより、相手を意識しながら話すことができるようになってきている。
- ICT機器を活用し、自分の発表を見直し、修正することにより、よりよい表現、発表をしようとする姿勢が身についてきている。

## VI これまでの実践から

### 1 「生徒が学びを深めている姿」をもっとしぼって、全教科共通の視点をもつ

- 自らの考えをもって活動する。
- 自らの考えを再構築する。
- 自分の考えを整理して、まとまりのある文章を書くことができる。
- 学んだことを自分事として捉え日常生活に生かそうとする。
- 「課題解決のために何をしたか」を記述する。
- 個人での見解を再度明らかにする。
- よりよい表現。
- 既習事項の定着。

## VI これまでの実践から

### 2 研究主題の副題に具体的な手立てを示す

～主体的・対話的で深い学びの授業実践を通して～



～互いの考えを伝え合い、  
自らの考えや集団の考えを発展させる言語活動を通して～